

幻影

これは 2050 年の中崎町の物語。

道を歩いていると一本の路地に出会う。

路地に吸い込まれるように中に入ると出口のない道に彷徨い込んでしまう。

カフェの中にある小さな舞台上でダンサーが踊りを披露している。

おしゃべり好きな雑貨屋の店主が客と雑談をしている。

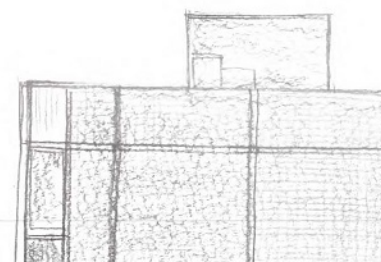
主婦が道端に洗濯物を干している。

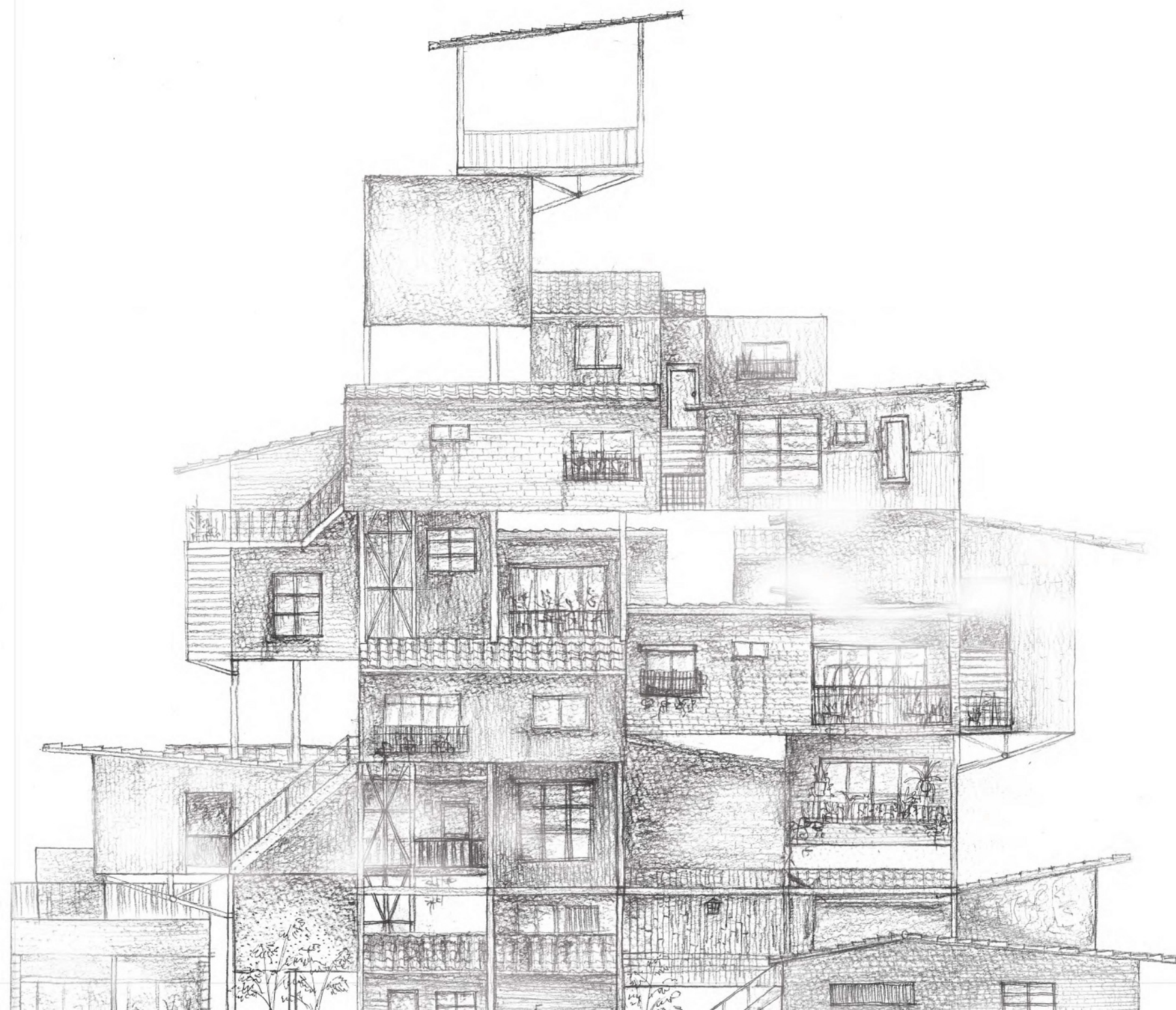
どれもが、中崎町で見るのが少なくなった懐かしい情景である。

見え隠れする道や建物の壁、植木鉢、看板などに誘われ、さらに奥に進むと町を一望できる場所に出る。

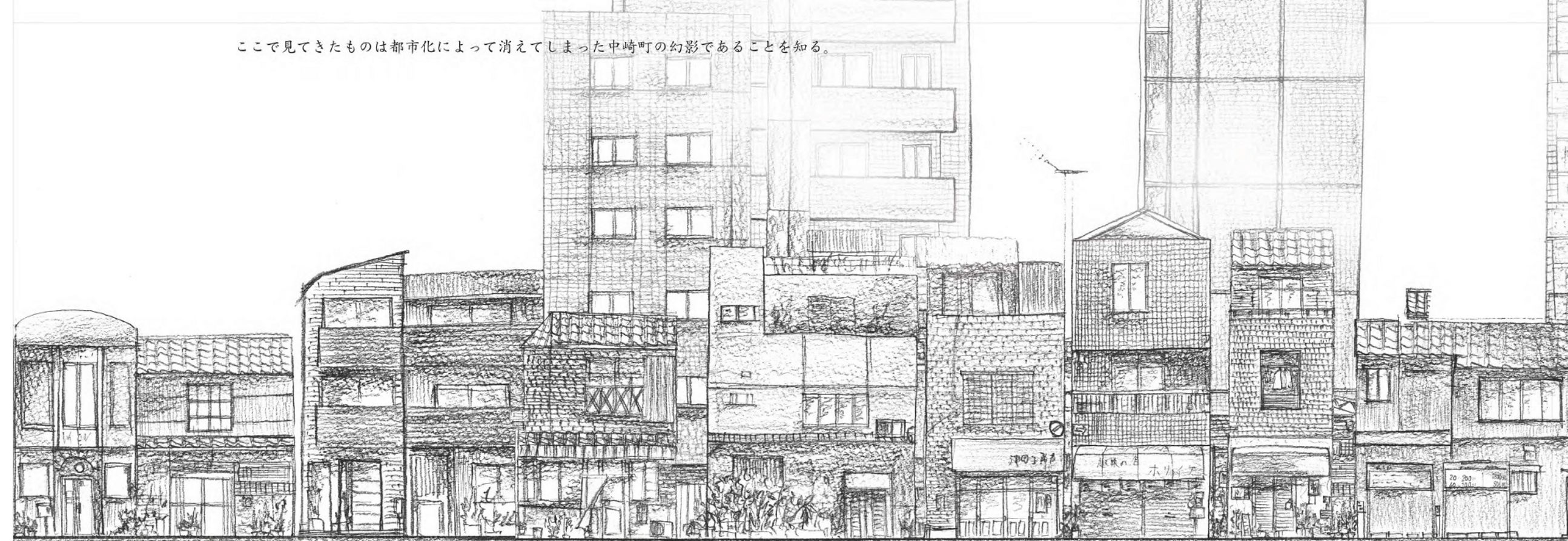
そこで見たのは都市が中崎町を侵食している姿であった。

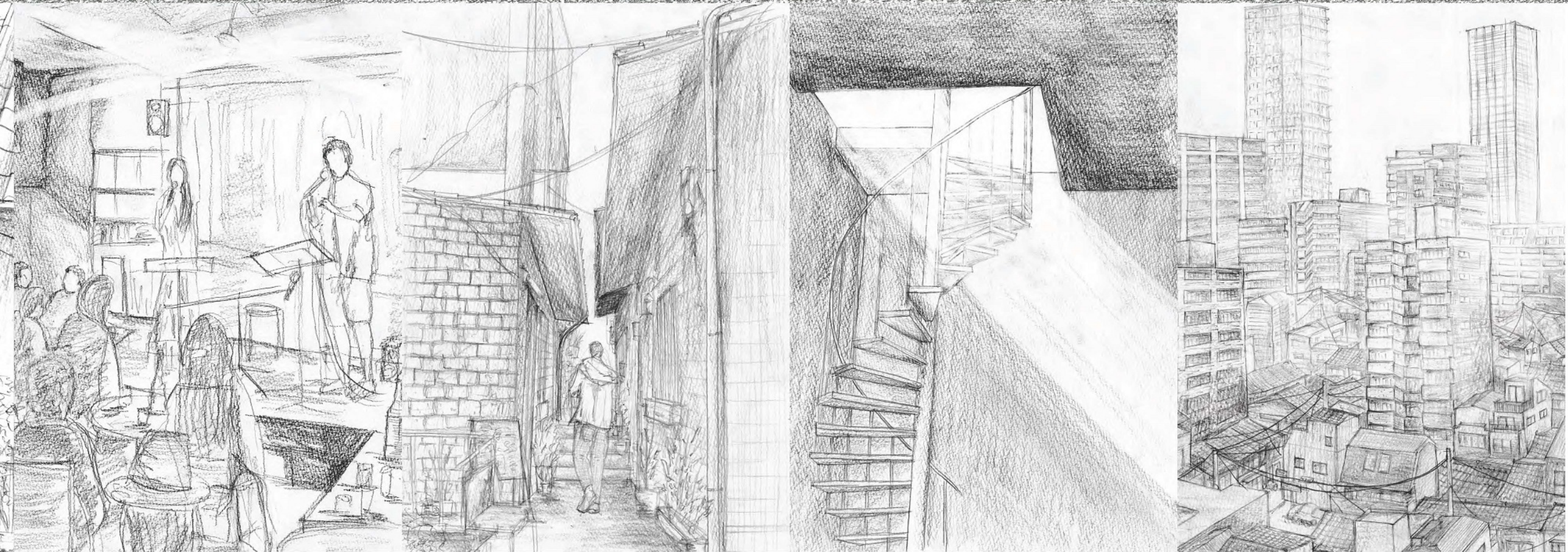
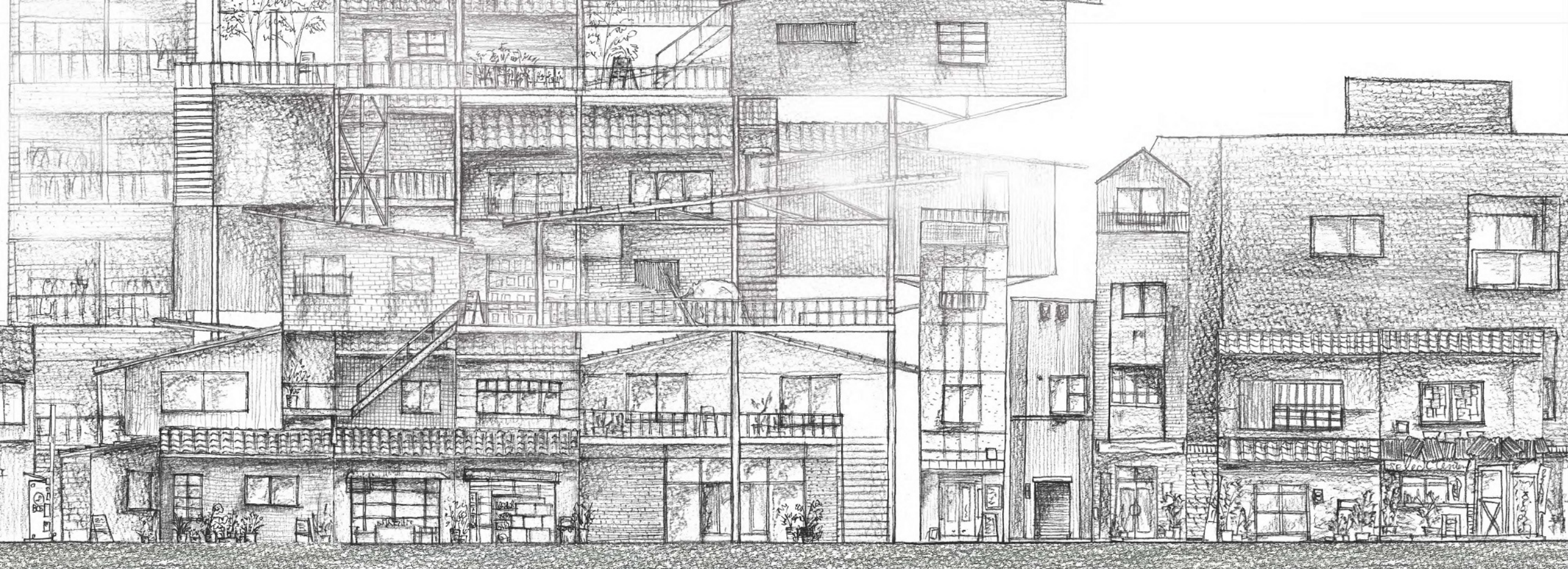
ここで見てきたものは都市化によって消えてしまった中崎町の幻影であることを知る





ここで見てきたものは都市化によって消えてしまった中崎町の幻影であることを知る。





中崎町の変貌

中崎町は西日本最大の繁華街である大阪梅田の近隣にあり、第二次世界大戦中の大阪大空襲によって周辺が焼け野原となった中で、戦災を免れた場所である。ここには古い長屋が林立するまちなみが残っている。

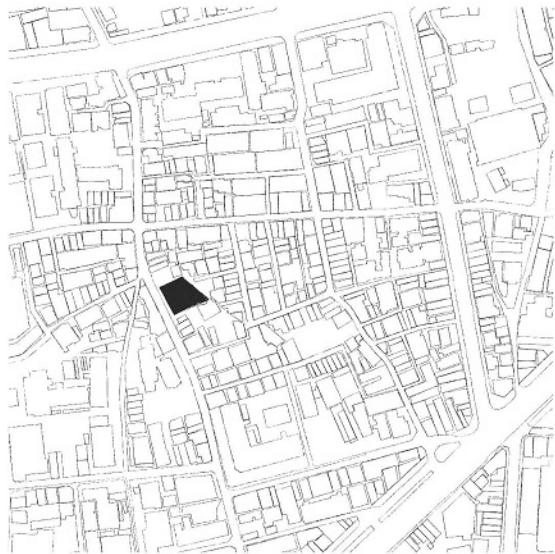
古家の多くは住民の高齢化に伴い空室が増えていたが、2000年頃から若いアーティスト達が空き家になった住宅を改修してブティック・喫茶店・小物雑貨店・ギャラリーなどとし、地域の住民を巻き込んで自らの個性やライフスタイルを表現する場となった。

しかし、2010年頃から近代化の過程で、中崎町の周囲から徐々に高層マンションやビルが次々と立ち並ぶようになる。中崎町の人々はこの地を守るという明確な意思がなく、これを黙って見ていた。

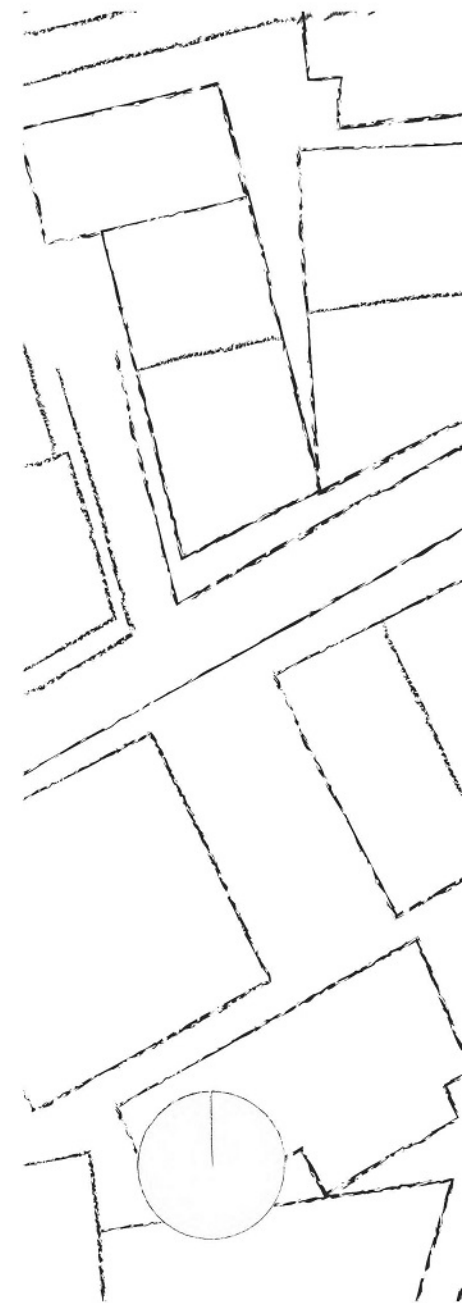
時が経ち2050年になると大阪はさらに近代化が進み、中崎町内部にまで都市が侵食していく。かつて住民とアーティスト達の間にあったコミュニティは無残に踏み潰されていた。

都市化に対抗すべくこの地に中崎町のシンボルを築き上げる。

物語の舞台



配置図兼平面図 S=1:100



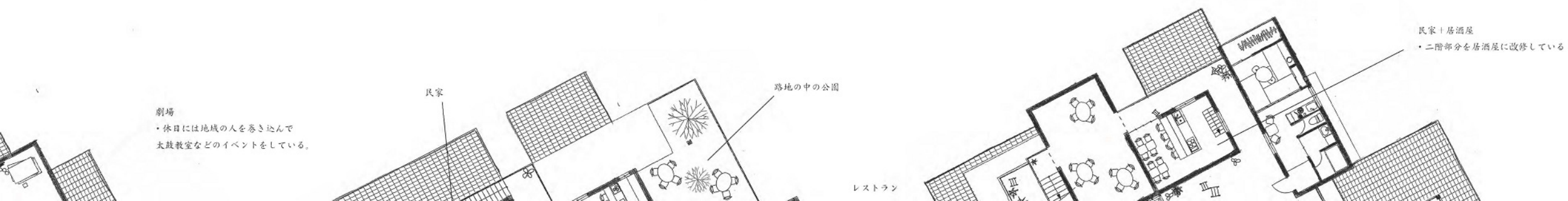
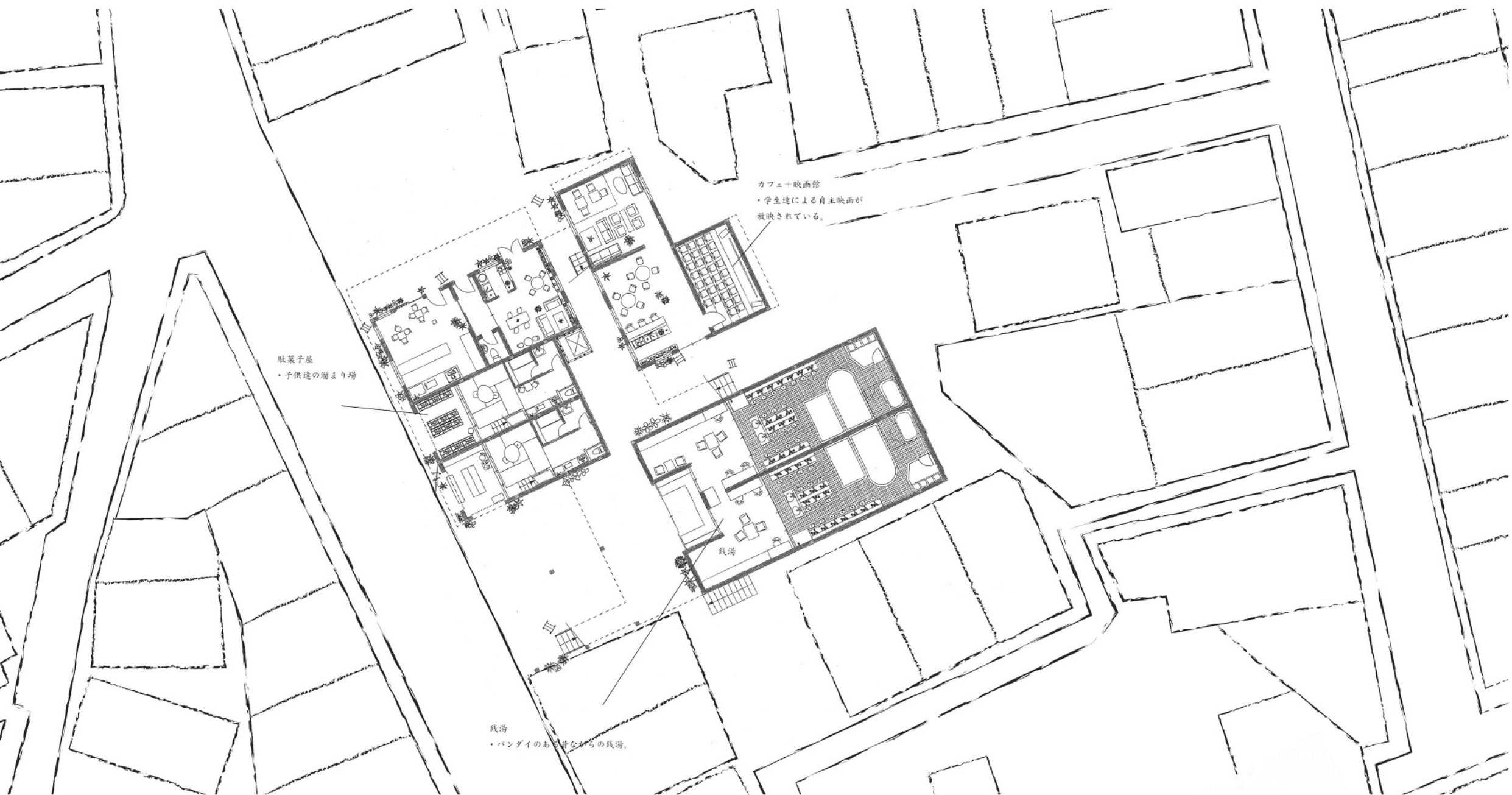
断面図

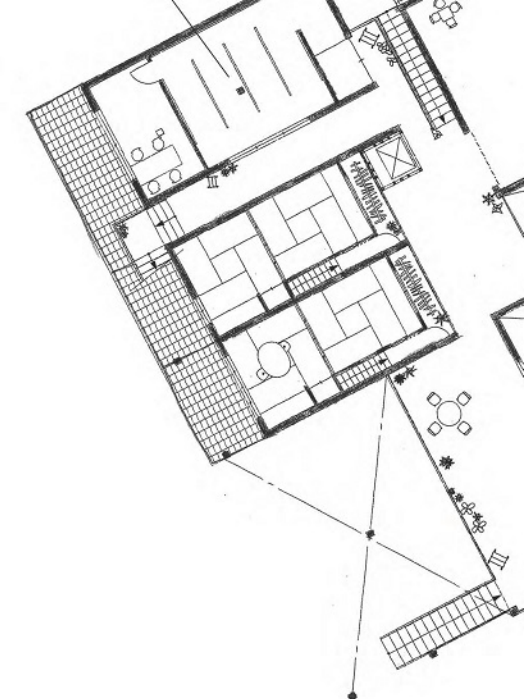


平面図 S=1:100

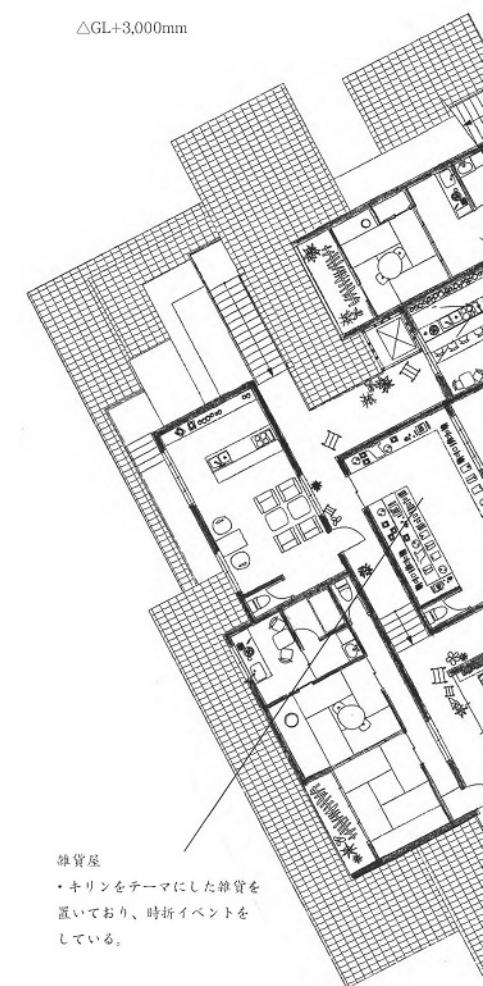
ギャラリー
・定期的にイベントをやっている。







△GL+3,000mm



雑貨屋
・キリンをテーマにした雑貨を
置いており、時折イベントを
している。

△GL+21,000~+24,000mm

